

日 時 平成29年5月6日（土）19:00～20:15

場 所 志津南まちづくりセンター多目的室

出席者 （会長）花澤（副会長）寺沼、川崎、高田

（町内会長）別所、小林、松田、須賀、中尾、六反田、竹内、山根、永井、勝田、中村

（グループ代表）山本、上田、瀬戸口

（事務局）妹尾、澁側

<敬称略>

1. 報告・連絡事項

(1) 会長から

① まちづくり協議会について

志津南学区まちづくり協議会は平成 26 年に市長の認定を受けている。各地域が多様化して環境が変化している現状で、全学区一律のサービスでは良いまちづくりはできない。地域の自治と一緒に、地域にあったサービスをしていくことがメインとなる。

まちづくり協議会の組織としては、各町内会長（自治会長）13 名と 14 の各種団体を活動別に 4 グループ化した代表者 4 名、まち協会長の計 18 名で理事会を組織している。

草津市から各種団体に出ていた補助金を一括してまちづくり協議会に交付され、地域にあった使い方をしている。志津南学区まちづくり協議会は平成 26 年に発足、4 年間の第一次行動計画は今年度が最終となっている。より暮らしやすいまちづくりをするために第二次行動計画を前年度の副会長の協力を得て推進していく。行動計画は 3、4 年では難しいので、平成 34 年までの 5 か年計画を策定する。

総会は最高議決機関であり代議員制となっている。町内の総会の場合はその場での質問だが、まち協の総会は、事前に書面で提出いただいている。まち協としては、事前に資料等を用意しながら説明したい。総会前にはまたご案内させていただく。

理事会での審議内容は、その場でやると何時間もかかるので、一週間前の土曜日に正副会長 4 名で調整し理事会に付議している。議事録については、各町内会（自治会）にオープンにしながらい覧していただいている。

新 5 か年行動計画を策定するにあたって、志津南学区まちづくり協議会の会員約 2000 世帯を対象にアンケート調査をしたい。社会学のプロの立命館大学に委託し、アンケート結果を元にどんな行動計画を策定したら良いのかまでを提案いただく予定である。それを基に新 5 か年計画を策定する。昨年の副会長と今年の正副会長で叩き台を作り、皆さんと検討し、合意を得ながら一年かけて新 5 か年計画を策定する。スケジュールとしては、7～8 月に調査を実施し、9 月～12 月の年内に集計・分析し、どんなまちづくりをしていくかを一年間かけて考えていく。アンケート実施に伴う経費については、平成 28 年度から平成 31 年度までの 4 会計年度総額 300 万円の「がんばる地域応援交付金」を活用する予定。

(2) 各町内会・各グループ・事務局から

① まちづくりセンター講座「まち協ってなに？」について

5 月 20 日に開催。講師は前まち協会長の中原さん。各町内会から 3 名、各グループから 2 名の参加をお願いしたい。終了後に、新しいコピー機の説明会と新コピーカード配布（2 枚）を行う。5 月 22 日以降は現行のコピーカードは使えなくなるので破棄してください。

② 平成 29 年度定時総会出席状況

集計結果を参考までに資料として配布した。

③ ふれあい推進委員会

7 月 29 日に夏まつりを開催する。今回は第 20 回。模擬店等ご協力をお願いしたい。例年だと 7 月 22 日の開催になるが、梅雨がまだ明けきっていない想定で 7 月 29 日とした。まつりで出るゴミの搬出は 7 月 31 日。

④ 環境美化委員会

4 月の草刈機講習会は 34 名の参加だった。追分南地区からも参加いただいた。春の一斉清掃は 5 月 21 日。下刈り参加者は、一週間前までに費用は各町内会負担のもとでボランティア保険に加入いただきたい。夏の一斉清掃は 7 月 16 日、予備日を 7 月 23 日。

⑤ 若草二丁目町内会

志津南小学校から、山手幹線階段おりたところから歩道がないので白線を引くという連絡を

いただいた。

⑥ PTA

通学路のかがやき通りの工事現場に工事車両が出入りしており、危ないケースもありどこに相談したらよいかという声を聞いている。私から学校へ伝える。

2. 審議事項

① 「がんばる地域応援交付金」について

がんばる地域応援交付金とは、平成 28 年度から平成 31 年度の 4 年間総額 300 万円(単年度上限 150 万円)の交付金である。追分南地区 4 町内会が加入され、状況が変わっているのをそれをベースに、交付金を活用して専門家である立命館大学に委託し住民アンケートを実施したい。交付金申請の締切が 5 月 15 日で月末に審査委員会がある。

【質疑応答】

Q. 課題を見つけて計画を立てるだけに交付金を使うのか？

A. 見積もりが出ていないので分からないが、アンケートでの残金の活用方法はまたご意見をいただきたい。事業はいくつあってもよく、総額が 300 万円ということである。

Q. アンケート費用の予想は？

A. 見積もりをお願いしている段階である。

Q. 大学側にどこまでやってもらうかで金額は変わってくるのでは？

A. こちらの要望書に、やっていただきたいことは書かせていただいている。

Q. 交付金が出る要件に合致しているのか？

A. 事前に市側と相談して良い感触を得ている。

Q. グランドデザインがあって、それを達成するために地域課題を見つけ、その為にアンケートをとるべきで、それが逆転していてアンケートありきになっているのでは？

A. 概要書にあるように、こちら側が把握したいことを挙げ、それらをアンケートに盛り込んでいただく。特に、追分南地区と若草地区の年齢層が異なり、一律にするわけにはいかず、若い世代と高齢者の世代などの対策を分けて行動計画を策定していく必要があると考える。

Q. 内容について、事前に確認や話し合う機会はあるのか？

A. 立命館大学側から、このようなアンケートをとるといふ話があるので、理事会等で確認や話し合う機会はある。丸投げし、結果を鵜呑みするわけではない。

Q. アンケートしても実際どれだけ帰ってくるか疑問がある。

A. 今年の理事会は、行動計画策定がメインとなる。何も分からないまま行動計画は作れない。内容についても理事会で決めていく方針である。アンケートだけでなくヒアリングも数多く実施していただく予定である。

Q. アンケートの実効性はいかなものか？住民アンケートは必要不可欠なのか？他に有効に活用できるものがないのか？今回締め切りが近いとのことだが、今回を逃すと行動計画の策定にシビアにリンクするのか？

A. この種の交付金は、過去にもあり前回は各町内会の消火ホースのノズルの取り替えや地域史誌作製をした。学区全体の状況をみんなで一緒に共有したいという考えをもとに、志津南学区のアンケート調査をしたい。

Q. 300 万円を超えることは想定されるのか？

A. 事務局でできる印刷や配布等はこちらでさせていただく。大学側も、授業の一環で取り込まれる。もしこちらの予算を超えた場合はお断りさせていただく。

Q. 帰属が協議会と大学の両方になっている。協議会側で調査結果を使いたい場合に問題にならないか。こちらが委託しているので、本来はこちら側に権利があるのではないか。

A. その点については、更に詰めていきたい。

Q. 残り日数が少なく、これを理事会で了解したとして、今後、柔軟に進路変更は可能なのか。

A. 最終見積もりが出たときに仕様も出てきているので、その辺りを含め次回以降の理事会でご意見いただきたい。

【結論】

がんばる地域応援交付金について、住民アンケートに利用するという事で申請する。